

(令和7年10月27日発表)

青葉シンボルロードの地上機器利活用実証実験の実施

◆アピールポイント	静岡市では、株式会社サンポール、中部電力パワーグリッド株式会社との協働により、青葉シンボルロードに設置されている地上機器を「まちの休憩スペース」として利活用する実証実験を行います。
◆実施日	令和7年11月1日（土）から11月3日（月・祝）まで
◆実施箇所	青葉シンボルロード歩道部
◆内容など	【概要】 青葉シンボルロードの滞留性向上を目指し、電力や通信などのインフラ設備である「地上機器」の上部にカウンターを設置します。通行人や観光客がコーヒーを片手に一息ついたり、子どもたちが語らうなど、気軽に滞在できる新たな場所としての価値を提供し、エリアの魅力向上を図ります。 【本取組のねらい】 - 都市インフラの付加価値の創出 従来は「景観を損なう」「通行の妨げ」とされがちな地上機器を、休憩や交流の場として利活用することで、都市インフラの課題を逆手に取った新たな価値を生み出し、公民連携によるモデルケースの構築を目指します。 - 公共空間活用に向けた機運の向上 今回の取り組みをきっかけに、公共空間の新たな活用アイデアを誘発し、歩いて過ごしやすいまちづくりの機運を高めます。

別紙資料 有

【問合せ】 景観まちづくり課 （静岡庁舎7階）

担当 たくみ いがらし
工、五十嵐

電話 054-221-1620

「街の箱」が「街の場」へ 地上機器の新たな可能性を探る

都市の歩道に設置されている箱。それは「地上機器」と呼ばれる、電力や通信、交通インフラを支える重要な設備です。無電柱化が進む現代の都市において、地上機器は地下に埋設されたケーブルの接続点や制御装置として欠かせない存在となっています。しかしながら、その存在はしばしば「景観を損なうもの」「通行の妨げになるもの」として扱われがちです。そんな中、地上機器の上にカウンターを設置し、街の休憩スペースとして活用することにより、通行人がコーヒーを片手に一息ついたり、子どもたちがアイスを食べながら語り合ったり、観光客が地図を広げて次の目的地を相談したりと、無機質だった地上機器が街の「場」へと変わっていきけるのではないかと。この課題や利活用への提案を静岡市役所、中部電力パワーグリッドと共有した結果、協働の取り組みとして、実証実験を行うこととなりました。

地上機器利活用 実証実験



アンケートにご協力をお願いします。
お客様の声をお聞かせください。



期間

2025年11月1日（土曜日）から
2025年11月3日（月曜日、祝日）まで

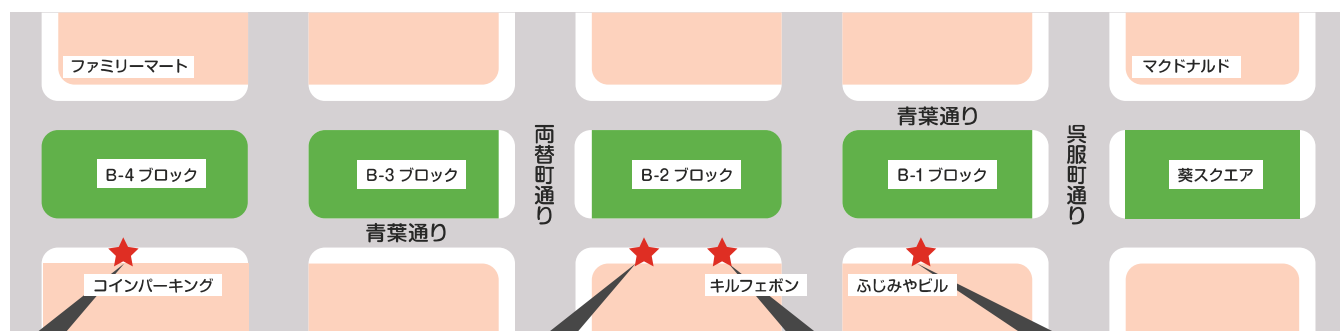
場所

青葉シンボルロードの一部
（静岡市役所から南西 約250m、下記「設置地図」を参照）

目的

地上機器を利活用したカウンターの
利用調査

設置地図 ★ 地上機器カウンター配置箇所（全4か所）



AB 型（サイドテーブル無し）



O 型（サイドテーブル折りたたみ）



B 型（サイドテーブル無し）



A 型（サイドテーブル固定）

【問い合わせ】

●実証実験全般に関すること 株式会社サンポール 広島営業部 山本 (TEL)082-244-4655 (E-mail)hiroyoshi-yamamoto@sunpole.co.jp

【協力】 静岡市役所 都市局都市計画部景観まちづくり課 様 中部電力パワーグリッド株式会社 静岡支社 様